



平成28年度 学校だより

緑 柏

長崎県立佐世保南高等学校

No. 142 平成29年 1月31日発行

発行責任者 松井 裕次

校長室の窓から

ライバルは自分自身

校長 松井 裕次

しなくていい心配

紅白に出場する歌手はもちろん、ゲスト審査員といえば、プロ野球の大谷翔平選手に代表されるように、正にその年活躍し、日本中を沸かせた人たちである。私は、リオデジャネイロ・パラリンピックの陸上女子400mで、銅メダルを獲得した辻沙絵選手に注目した。最初に、腕を露わにしたドレスで現れたのに驚いた。そして、一組ずつ歌が終わるたびに、笑顔を絶やすことなく、不自由な腕で懸命に拍手を送っている姿に心を打たれた。一方で、しなくていい心配をしている自分にはっとさせられた。

できないことを減らしていく

辻選手は、生まれつき右腕の肘から先がない。でも、常に発想はプラス思考。「できないことを、決して諦めるとは言わない」「できないことを減らしていこう」という前向きな発想を大切にしている。私ならバドミントンや卓球、サッカーを選ぶだろう。辻選手は小学5年でハンドボールを始め、左腕や胸で痛い思いをしながら球を捕って投げる練習を繰り返した。ハンディをものともせず、中学・高校ではレギュラーとして活躍。高校2年時にはインターハイでベスト8、国体にも出場した実績を持っている。さらに健常者と同じスポーツ推薦で日体大に入り、ハンドボール部に所属。関東1部リーグでプレーしていた。ケガによる手術を経験してまでも続けていたのは、ハンドボールが大好きだったからだ。

大きな“決断”と冷静な“自己分析”

一昨年3月、陸上に適性のある瞬発力を期待され、パラスポーツに飛び込んだ。半年余りで世界選手権100mで6位入賞。そのときの表彰台を見て、「自分もメダルを取りたい」という思いを強くした。ここから、大好きなハンドボールから離れ、陸上一本に絞る決断をした。

また、冷静で的確な分析力に優れている。「400mは、世界で60秒を切るのは2人。練習さえすれば必ず60秒を切ることはできる。そこからは努力次第だ」と分析した。リオ・パラでのゴールイメージを描いた上で、メイン種目を400mへ変更した。

昨年春には400mで日本新記録をマーク。そして、リオ・パラの決勝。スタートから飛び出した4人に対し、辻選手は焦らず冷静に追いかけた。「必ず後半に落ちてくる、ラスト100mで勝負する」と決めていたという。最終コーナーで2人を抜いてゴール。銅メダリストになった。レース後の笑顔と嬉し涙、日の丸を誇らしげに掲げていたのが印象的だった。

もがき苦しむ覚悟

辻選手は東京パラリンピックで、複数のメダルを目指している。その道のりは遠い。「もがき苦しむ覚悟はできている」と言う。辻選手のことを、人は「努力する闘争心」と呼ぶ。きっと、闘う相手は自分自身に違いない。自分のできないことを減らしながら、自身にとって一番大切なものを求めていく姿に学びたい。

最後にタイプは違うが、もがき苦しんだという意味で、大関 稀勢の里にふれておく。これまで、素質に恵まれながらも優勝を逃し続けてきた。稀勢の里が闘っていたのも自分自身だった。この初場所、悲願の初優勝を成し遂げた。「相撲は土俵際が一番面白い」という先代鳴戸親方の教えの通り、千秋楽の土俵際で白鵬をくだし、横綱昇進を大きく引き寄せた。稀勢の里のここ一番の弱さに自分自身を映しながら、親しみを感じてきた人も多かろう。今回、苦しさを乗り越えた強さに大きな勇気もらった。受験本番、入試も土俵際が大切だ。3年生の合格を祈る。

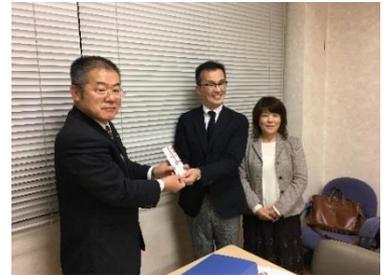
大学入試センター試験を終えて

平成29年度大学入試センター試験は1月14日(土)、15日(日)に実施されました。本校生徒は、長崎国際大会会場において受験しましたが、全国的に大雪に見舞われる地域が多い中、当日は天気にも恵まれ、無事に受験を終えることができました。各休み時間ごとに控え室では先生たちが生徒をねぎらったり、生徒たちがお互い励ましあったりする姿が印象的で、良い雰囲気の中で2日間の日程を終えました。

担任との面談を通して、生徒たちは自己採点結果をもとに2月1日までに国公立大学への出願を済ませることになります。並行して、2月25日から行われる個別学力試験(2次試験)や私立大入試に向けての対策講座に取り組んでいます。センター試験終了は国公立大学及び私立大学の受験者にとって前半戦が終わったに過ぎません。最後まで子供たち自身の進路実現に向け、諦めず、合格を手にすることができるよう応援したいと思います。

育友会より贈呈

去る12月2日(金)、第3回育友会常任委員会で、「文化祭バザー及び体育祭飲料水販売の収益金の授与式」が行われ、169,843円の収益金が育友会会長の喜多様、行事運営委員長の太田様より、校長に贈呈されました。



祝 女子バスケットボール部 初優勝!

○女子バスケットボール部
長崎県高等学校新人体育大会 初優勝!!!

○男子バレーボール部
長崎県高等学校新人体育大会 第3位!!!



1月28日(土)～1月30日(月)に行われました長崎県高等学校新人体育大会で、本校女子バスケットボール部が「優勝」、男子バレーボール部が「3位」という素晴らしい結果を出してくれました。女子バスケットボール部は宿敵 長崎西高校を破っての初優勝です。両部とも、チーム一丸となって一生懸命取り組んできた結果ができました。

この結果により両部とも、以下の日程で九州大会に出場します。九州大会での活躍を期待して、南高全員で応援しましょう!

【男子バレーボール部】 第27回全九州選抜高校バレーボール大会 2/10(金)～2/12(日) 串木野市

【女子バスケットボール部】 第27回全九州選抜高校バスケットボール大会

3/18(土)～3/20(月) 宮崎市

3 学年 「全力疾走～残り 1 ヶ月が大きく成長させる～」

毎朝お弁当を作るときに、合格しますようにと念じながら作っているんですよ。」「最後ですから、できるだけことをしていきたいと思います。」これは、3年生のある保護者の方の言葉です。いろいろな人の“思い”に支えられた、高校生活の3年間が終わろうとしています。最後の約1か月に全力を注ぎ、こうした“思い”に応えて、有終の美を飾ってほしいと願っています。

1/14・15で行われたセンター試験は無事に終了しました。まずは、第一関門を無事クリアしたと言えます。現在は、自己採点をもとに、出願校決定のための面談も終わり、特別編成授業に全力を注いでいるところです。多くの生徒には、これから大学ごとに行われる個別学力試験の第二関門が待ち受けています。生徒達は休む間もなく、二次試験に向けて毎日慌ただしい学校生活を送っていますが、多くの方の“思い”に応え、何より、将来に向けた自分自身の成長のためにも受験勉強に全力で取り組み、それぞれ自分の進路を実現してもらいたいと考えています。



2 学年 「～70回生の限界突破～」

1月12日、センター試験1年前集会を行いました。集会では各教科からの学習アドバイスに加え、以下のことを確認しました。

①これから全ての学校行事に「最後の」というタイトルが付く。最後の高総体、最後の前期中間考査、最後の校内大会……。二度と戻らない毎日を大切にしよう。

②センター試験までの日程を管理するためにスケジュール帳を持ち、社会に目を向けるためテレビのニュースを10分見よう。

2学年当初に決定した「限界突破」というスローガンは、70回生の投票で決めました。70回生が最も好んだスローガンです。理由は「まだまだ限界に達するほど全力を出していないから」「自分に喝を入れるときの言葉にしたいから。」「自分の限界を突破できる瞬間を味わいたいから」などでした。さて、どうでしたか？

これからの学校生活の一日一日を大切な歩みとして、己の限界を突破できた瞬間を味わえるよう、70回生全員で頑張りましょう。



1 学年 「～71回生にできないことは^{ナイ}71！！～」

まもなく、71回生が入学して1年が過ぎようとしています。新しい生活への期待と不安が入り混じった4月の表情から、この1年間でどのように変化してきたでしょうか。

さて、新年度の4月には新しい新入生を迎えます。今の1年生に望むことは新入生から見て「1年間の南高での生活がこんなにも人を成長させるのか」という手本になって欲しいということです。成長とは今までできなかったことができるようになること。その定義に従えば学習面、生活面、部活動など71回生はこの1年間で大きく成長したと思います。1年生の残り2ヶ月、できなかったことができるようになるために、もう一度日々の生活を見直し、成長に繋げる事ができる学校生活を送っていききたいと思います。次年度は、学校の中心として様々な場面で71回生が活躍することを期待します。

創立記念日に寄せて

櫻花の情熱的なる、桃花の艶情的なるに比すれば梅花は理知的である。

身世匆忙として変転極まりない時代に處するは容易なことではない。人はその時代的特性に眼鏡の度を合わせる必要があるが、その目は飽くまで高きを望む客観的鮮明さを持たねばならぬ。足下の混乱に意志の自由を失い、複雑なる事態に批判力の不健康に陥ることは創造的生活と縁を絶つことに他ならぬ。常に省みてその放心を求め、思うて無限の真実に迫らなければならぬ。

梅は愛を内容とする知性に輝く花である。

(初代校長 照屋亀三先生 『青雲』 創刊号寄稿の抜粋)



南高では創立以来、「新しいものを創りだし、皆で誇りある南高を築きあげていこう」という気風が脈々と受け継がれています。また、自ら努め励んで怠らず、放縱に流れ易い自己を自力で制御すること、すなわち「**自己に厳しくあれ**」という精神と、親しみの中にも敬い慎み、礼儀をわきまえ、自己の心身を正すこと、すなわち「**相手に優しくあれ**」という精神が本校の校風として根付いていきました。そして、創立34年目の昭和57年度に「**自彊自律**」「**和敬禮節**」が校訓として制定され、爾来、この精神は本校すべての教育活動の底流となっています。ともすれば安易で利己的な自由を求めがちな昨今の風潮にあって、自律や敬愛の精神を保つのは難しいことです。しかし、その困難さに敢えて挑戦する姿勢を南高生には持ち続けてほしいと思います。

本校は、平成30年度に創立70周年を迎えます。「**理想は高し・・・**」の気概を胸に、南高のよき伝統と誇りを受け継ぎ、さらに新たな伝統を築き上げていきましょう。たくさんの同窓生が、南高魂(こころ)が、そして、多くの汗と涙を吸収したこの学舎が、いつも君たちの頑張りを見守っています。

《 2 月 行 事 予 定 》

1日(水)	開校記念日(平常授業)	18日(土)	Sプロ(3年)
4日(土)	進研M(2年)、Sプロ(1・3年)	21日(火)~24日(金)	学年末考査(1・2年)
5日(日)	進研M(2年)、ハイレベル模試(1年)	23日(木)	前期受験者集会
7日(火)	推薦入学者選抜(午後)	25日(土)	国公立大学前期日程試験
8日(水)	常任委員長改選	28日(火)	卒業式予行
11日(土)	個別学力試験対策模試(3年)		同窓会入会式
	Sプロ(1・2年)		
	英語スピーチテスト(1年)		